

日本共産党・手良支部

ある。今時であるので手廻り区の期待を一身に背負っているわけにいかないらしいという。オリンピックの選手の人々が言ったように頑張っている。その中で楽しんでほしい。▼2面「再び満蒙開拓団について」ではこのことと本日の課題であるといっている。再び繰り返してはならない。国会が始まっているが、この頃時々見える▼憲法9条の活動する「手良9条の会」の活動も期待される。会では地道な活動であるが毎月3日の午後1時から30分間、中坪公民館前県道で全国一斉のスタンディングアピルを行っている。「全国9条の会」呼びかけ人・ノンフィクション作家の澤地久枝さんが提唱したことで、俳人の金子兜太さん書いた「安倍政治はゆるさない」のフラスタを掲げてアピルする。会では皆さん参加をよびかけている。

(下)

再び満蒙開拓移民について ②

河野村開拓団の前途は明るく思われた1年後、団の中核をなしていた青壮年の男たち21人が招集され兵隊にとられてしまいました。後に残ったのは女・子ども・老人ばかりです。

昭和20年8月9日、ソ連軍の満州侵攻が始まると、土地を奪われた中国人農民が武器を持ち、開拓民を襲うようになりま。女・子ども・老人ばかりの開拓団では、なすすべもありません。村を棄てて逃げましたが、「到底逃げ切れるものではない、生きて辱めを受けるよりは、いっそ皆で死のう」と相談し、まず子どもを次々と絞め殺し、次に自分達が自害して果てました。先にふれた久保田さんは母親たちから頼まれて20数人の子どもを手にかけてたのでした。

昭和20年8月9日、ソ連軍の満州侵攻が始まると、土地を奪われた中国人農民が武器を持ち、開拓民を襲うようになりま。女・子ども・老人ばかりの開拓団では、なすすべもありません。村を棄てて逃げましたが、「到底逃げ切れるものではない、生きて辱めを受けるよりは、いっそ皆で死のう」と相談し、まず子どもを次々と絞め殺し、次に自分達が自害して果てました。先にふれた久保田さんは母親たちから頼まれて20数人の子どもを手にかけてたのでした。

昭和20年8月9日、ソ連軍の満州侵攻が始まると、土地を奪われた中国人農民が武器を持ち、開拓民を襲うようになりま。女・子ども・老人ばかりの開拓団では、なすすべもありません。村を棄てて逃げましたが、「到底逃げ切れるものではない、生きて辱めを受けるよりは、いっそ皆で死のう」と相談し、まず子どもを次々と絞め殺し、次に自分達が自害して果てました。先にふれた久保田さんは母親たちから頼まれて20数人の子どもを手にかけてたのでした。

昭和20年8月9日、ソ連軍の満州侵攻が始まると、土地を奪われた中国人農民が武器を持ち、開拓民を襲うようになりま。女・子ども・老人ばかりの開拓団では、なすすべもありません。村を棄てて逃げましたが、「到底逃げ切れるものではない、生きて辱めを受けるよりは、いっそ皆で死のう」と相談し、まず子どもを次々と絞め殺し、次に自分達が自害して果てました。先にふれた久保田さんは母親たちから頼まれて20数人の子どもを手にかけてたのでした。

生活雑記

150

延命治療法

小松利江

4月、病院からの帰り道、動物園に立ち寄る暖かい陽射しを浴びながら、夫婦で昼食のオニギリを食べたその時、海苔が喉に詰まってアツと思う間もなく窒息状態になってしまった。直ぐに手当てをしたのに、四か月という時間を病院の集中治療

奇跡的に助かった久保田さんは戦後村に還りましたが、86歳の今日までたぶん地獄の苦しみを背負いつつ生きて来られたのではないのでしょうか。

胡桃沢村長は、隣村の帰国者から河野村の集団自決の話聞き衝撃を受け、自分の犯した罪深さに苦悩し、昭和21年7月27日自宅で自殺してしまいました。悲劇が悲劇を呼んだのでした。

河野村では戦後70年間、これらの満蒙開拓と村長の自殺について語ることがタブーでした。しかし、最近久保田さんは悲劇の証言を始められました。

以上、なるべく番組の内容に添ってお話をしてみました。改めて満蒙開拓という国策のあまりとその名のもとに犠牲となり、言葉で表現することが出来ないほどの悲惨な結果を生んだ歴史について、私たちはより深く見つめ考え

室で生死をきき続けて息を引き取った。もしかして、助かるかもしれない、目だけでも良いから開いてほしい、呼び掛けにこたえては、大勢の人がかわるがわる出掛け、ついに残ったのは病状は変わる事無きまま眠り続けている姿を見ていると、この先どうなるのか大きな不安に包まれる事、3か月を過ぎたところから、瘦せ衰えて骨の上に皮膚が張り付いているだけの姿になってしまった。

倒れたその時から、人口呼吸器によって生かされている事を頭では解っているつもりでも、実際にその場に立つてみると全く知識の無い事に気づいた。一か月が過ぎたか月が過ぎて、病状は変わる事無きまま眠り続けている姿を見ていると、この先どうなるのか大きな不安に包まれる事、3か月を過ぎたところから、瘦せ衰えて骨の上に皮膚が張り付いているだけの姿になってしまった。

4年ぶりの水無山 手良ハイキング

手良公民館主催の「手良ハイキング」は天気の良い8月28日に行われ54人が水無山へ登りました。

J A手良支所前庭駐車場へ集合し、竹中俊公民館長より「水無山は昭和11年から14年の4年間、戦前の軍事訓練として今では考えられない頂上の狭い所で1年生から高等科まで700人が棒倒しなど運動会を行った歴史があること、頂上からは小学校の屋根などが見えるのでふるさとを感じながら登って」などのあいさつがありました。



手良ハイキング



俳句 秋祭り 荒井圭子
秋祭鮎甘から煮付けたり
仙丈ヶ岳(せんじょうの)残雪きと暮れたる
夕やみをホタルがすいと飛んでゆく
アスパラが毎日背くらべしているよ
残雪の嶽を遠く見暮らしたる



野口の二十一夜様

今年もまた恒例の野口区主催の「二十一夜様」が虫の音が草むらですだく8月21日の夕方から野口蟹沢入口の百庚申広場で野口蟹沢入口の百参加し賑やかに行われました。テントを2張立てその中で飲食と懇談があり、焼きそばやヨーヨーなどを扱った棚沢の後藤八郎さんなどの夜店も出ました。

二十一夜様は「両山講」の人たちが担って昭和20年代(1945〜55年)頃までは縁起されてきました。時代の流れとともに衰退(休講)した。

中坪公民館は毎年行っていますが、開催者の参加もあり久しぶりの出会いを楽しんでいます。

野口の二十一夜様

同行する信州大学農学部林業系サークル「伊那守」の学生6名の紹介があり、事前に調査し作成した、植物や地元集落の説明のあるまめパンフレットが配布されました。

水無山に11時頃に到着し、ふくも出され昼食をとりました。頂上には伐採跡の景観が広がっていました。

新市民館「てらとびあ」に

新市民館の愛称が「てらとびあ」と決定しました。応募点数86点の中から下手良氏の矢澤智明さんの作品が決まりました。

矢澤智明さん談「手良と理想郷を合わせた造語で、ひらがなで柔らかみを出しました。手良に生まれてずっと手良に生きてきました。また公民館とともに手良の歴史を刻んでいきます。

中坪公民館主催の「納涼祭り」は今年も8月15日の夕方に中坪公民館庭で行われ心配された天気も良く多くの人で賑わいました。

恒例の「納涼祭り」 中坪公民館

中坪公民館主催の「納涼祭り」は今年も8月15日の夕方に中坪公民館庭で行われ心配された天気も良く多くの人で賑わいました。

身近な出来事を、早く皆さんにお伝えしたいと思っています。何かありましたら左記まで連絡をお願いします。
七八〇九四三 高橋



中坪「納涼祭り」



向山智恵子